
開拓物語 序章「夢見る二人」

yaiba

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

開拓物語 序章「夢見る二人」

【Nコード】

N9187Z

【作者名】

y a i b a

【あらすじ】

遙か昔、とある星での、まだ見ぬ大地を求めて旅をしている開拓者達の話

彼らは自分達の楽園を求めて旅をしている

主人公の權は父や姉、兄も入団している開拓者達のリーダー組織である「開拓団」の一員になり、新天地を夢見て皆の為に前線に出たかった

主人公の幼馴染の鈴は、怪我をした人を治してあげたくて、「開拓団」の治癒部隊のトップである、治癒師を目指していた

そんな夢見る二人の成長を描いた物語

開拓物語（前書き）

基本的に厨二病で、主人公無双かもしれませんが、良かったら読んでいって下さい！

開拓物語

さて、皆さん、突然の質問になりますが、夢や希望を持っていますか？

単に夢や希望と言ってもよく分からないと言う人もいるでしょう。

これから始まる物語は、そんな夢や希望を持つ開拓者達のお話です。

「……………zzz」

「ねえ、起きてよ、そろそろ時間だよ？」

そう言つて少女は隣で気持ち良さそうに昼寝をしている少年を揺さぶっていた

「もう少し寝かせてくれ…zzz」

少年は起きようとしなかった

「ほら、起きないと！お父さん達に怒られるよ？」

少女は少年の頬を叩き始めた

「分かった、分かった…ふあゝzzz」

少年は大きなあくびをし、立ち上がると少女に向かって手を差し出し、こう言つた

「さ、行こうぜ！鈴^{りん}！」

「はあ…さっきまで全然起きなかったのに…」

鈴は少年の手を取つて立ち上がり、服についた砂埃を払つた

「あ、そうだ、^{かい}權、誕生日おめでどうこれで10歳になれたね」

「ああ、これでやっと父さん達の仲間に入れる！」

「權は、本当に開拓団が好きなんだね…危ない仕事なのに…」

鈴は不満そうに喋っている

「大丈夫だつて！俺は術式や魔術だつて村一の腕なんだぜ？それに鈴は開拓団の治癒師志望だろ？」

權が得意げに言うのに対し、鈴は

「そうだけど！それは怪我をした人を治したいからで…第一に櫛は治癒魔法も治癒系統の術式も使えないじゃない…」

呆れたようにこう言った

「大丈夫、大丈夫！傷は鈴が治してくれるだろ？」

櫛は当たり前のように言った

「まったく…ほら、時間過ぎてるよ？いいの？」

鈴は少し照れながら言った

「え？…！やばっ！何でもっと早く起こしてくれなかったんだよ！」

「起こしても起きない方が悪いもん！」

「何をー！」

「何をー！」

二人はとても楽しそうにいがみ合っていた

「…ってやべえ！時間がない！走るぞ！」

櫛が走り始め、鈴は

「あ、待ってよ」

急に走り始めた櫛を追いかける

「先に辿り着いた人の勝ちだからな！勝ったら、願い事を叶えるんだぞ？」

「ええ？ず、ズルいよ」

二人はとても楽しい毎日を過ごしていました

次章へ続く

開拓物語（後書き）

読んでいただき、ありがとうございました！

読んでみてどうだったでしょうか？どんな感想でもいいので、書いていって下さい！

思いつきで書く事も多いので、下手な表現は我慢してもらえると嬉しいです（大汗）

兎に角！読んで下さってありがとうございました！良ければ続きも読んで下さい！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9187z/>

開拓物語 序章「夢見る二人」

2011年12月28日20時58分発行